

1 本年度の学校教育目標

「ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成」

2 本年度の学校重点目標

①ふるさとの自然・人・文化に学び高柳を誇りに思う児童の育成      ②主体的に「生きる力」を育てる      ③安全、安心な学校づくり

3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善)

分野	評価項目・取組内容	達成状況R4	学校の取組状況・改善の方策
学校運営	開かれた学校づくり	A	授業参観や学校行事等予定通り実施でき、児童の活動する姿を保護者に見せることができた。ホームページをこまめに更新し、いろいろな活動の様子が紹介できた。保護者、地域の方とともに同じ方向で子どもたちを育てていけるよう、これからも情報発信に努める。
		B	地域の方がたのご協力を頂き、高柳小学校ならではのふるさと学習を実施できている。今後はさらに新しい取り組みや人材を更新しつつ、継続した取り組みを行うとともに、地域に発信するような取り組みや、学校を拠点とし、地域の活性化につながる教育活動が行えるよう努めていく。
	危機管理体制の整備	B	年末に感染症の流行があったが、速やかに家庭と連携を取り対応することができた。本年度関係機関と連携をとりながら様々な事態を想定した避難訓練を行うことができた。今後は地域とともに取り組む避難訓練の実施を検討していきたい。
教職員の資質向上と勤務の適正化	感染症対策を徹底しているか。	A	こまめな消毒・換気を行い、可能な限り感染症対策に努めた。児童会の活動で注意喚起をするなどし、児童も学校に入ってから帰るまで感染症対策の意識付けもできた。ただ、実際にはやりだすと止めることができなかつた。今後も継続した取組をおこなっていく。
	勤務時間の適正化に努めているか。	B	学校全体では長時間の会議はなく、個人的にも早く帰れるよう意識して計画的に仕事に取り組むことができています。また、HKD（はよ帰ろうデー）を設定しお互いに声をかけ、取り組むこともできた。今後も業務を取捨選択し、精選・軽減をはかれるよう努める。
学習指導	基礎基本の定着と個に応じた学習指導の充実	B	ドリルやプリント学習と共に、ノートを見返ししながら反復させることで学習に向かう気持ちが向上してきた。10分間の学習タイムも毎日の積み重ねとして力になっている。他学年の取組等を共有しながらさらに効果的な活用を行っていききたい。
		A	連絡システムを使うことで、学校全体で児童の情報を共有し、全職員で個に応じた指導に努めることができています。また、校内教育支援委員会で検討し、複数指導による個別の支援の計画を立てサポートすることができた。
	対話力の育成と読書活動の推進	B	対話を意識してグループでの話し合い活動が構築されるようになり、「楽しい」と感じる児童が増えた。また、司会や記録など役割分担を意識して話し合いが上手に進められるようになった。今後は国語以外でも活発な話し合いができるよう、取り組みを広げるとともに、さらに研究を継続していく
		B	ふれあい委員会で取り組んだ親子読書やそうあんくんの日、お話しレストラン等、読書活動の推進に取り組むことができた。語彙力を増やしたりさらに読書習慣を向上させるため、担任は読書傾向にも注意しながら読書指導をしていく必要がある。
	道徳教育の充実	B	授業の内容を日常生活に生かせるよう、授業の振り返りに力を入れた。日々の学級活動や学習活動の場で道徳での学習との関連を想起指導することがあり、学級経営に役だった。副読本の親子読書にも取り組み、よい意見がたくさん寄せられた。
	人権教育の推進	B	ニュースを始め、身近にあった出来事、自分の体験等を子どもたちに情報提供し、それらについてみんなで考え合った。同じ目線で考えたり思いを伝え合ったりすることは、とても有効である。人権標語や作文に取り組み、作品を掲示したことなどで人権意識を高めることができた。
	ICTの取組	A	コロナによる臨時休業中に全学年でオンライン学習を行うことができた。授業中だけでなく、学校行事等でも積極的にタブレットを用いて、情報活用能力の育成に努めることができた。さらに、どんな活用ができるかを共有できる場を設定し、学校全体のポトムアップを図れるよう努める。
	外国語教育の取組	A	ALTやJTEに発音やフォニックスの指導を積極的にお願いし、より外国語への理解を深められた。また効果的な学習活動を行うため、ALT等と打ち合わせやメッセージのやり取りなどを積極的に行い、授業計画を行った。
体力の向上と健康への習慣づくりの推進	B	体育の時間「ヤップアップ体操」などを行い基礎体力の向上を行っている。体力アップサポーター事業を活用し、児童の基礎運動能力の向上を図ることもできた。野外でも学級遊びをよく行っているが、今後は休み時間等全校で取り組む運動や遊びを計画していく。	
生活指導・その他	基本的生活習慣の確立	B	児童会の企画で掃除の時間に音楽を流す取り組みにより、時間いっぱい使ってそうじができる児童が増えた。挨拶に関しては個人差があるので日常的に指導し徹底していく必要がある。
	お互いを認め合ういじめのない集団づくり	B	生活目標でのよいところ見つけを意識させたり、帰りの会でよいところを発表したり、縦割り活動を活発に行うことにより良好な人間関係を構築するよう努めた。お互いの名前を大切に、きちんと呼ばせる指導に努めなければいけない。
	子どもの内面理解に基づく指導	A	定期的に生活指導委員会や子どもを語る会を開催し、全職員共通理解しながら指導することができた。生活アンケートの結果に対応したり、子どもの話を機会を見て聴くことを大切にして子ども関わるができています。
	家庭・地域との連携	B	「そうあんくんの日」の取組について、おうちの人のコメントから、お手伝いや読書を頑張っている様子がうかがえた。今後もグッドメディアや自学の内容など、保護者の理解と協力が求められるよう、引き続き啓発が必要である。
連携教育	B	6年生中学校登校や自学ウィークなど、中学校を見据えた学習に努めることができた。特に自主学習ウィークの取組で、自主的に取り組む児童が増え、意識が高まった。教員が夏季休業中にこども園に行き園児の実態把握を行うことができた。	

(学校自己評価・学校関係者評価)

4 総合的な学校関係者評価

・今後の高柳小学校について、学校運営協議会としても今後の少子化対策について議論していくべきではないかと考える。また、小規模校として子ども達にどう「生きる力」を育てていくのか、特色のある学校作りをおこなってほしい。  
 ・コロナ禍でも、学校・課程・地域が連携し、学習や学校行事、PTA活動、地域人材の活用についてできる方法を模索しながら、予定通り実施することができている。これからも学校運営協議会の活性化を図りながら、よりよい学校運営を目指していきたい。

5 評価項目ごとの学校関係者評価

学校自己評価の適切さ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと学習について、本年度も例年通り進め、さらに自治協などとも連携して地域人材の活用もできていたので、よい取り組みができていると考える。</li> <li>・学校と地域が合同で行う避難訓練について、高柳では毎年地域の避難訓練を行っている。そのノウハウ等を生かして、小学校の防災教育に協力できると考えるので、今後実施方法について学校と議論していきたい。</li> <li>・地域との連携について、コロナ禍でいろいろと行事は制限や中止になったが、できることならたくさん小学生にも地域行事に参加してほしい。特に但馬一斉クリーン作戦など、積極的に参加していただき、地域の住民と顔なじみになることは大切である。</li> <li>・感染症対策について、年末に高柳小学校では流行してしまった。徹底できているとは言えないかもしれないが、学校の指導により、子ども達は対策することが日常になるよう指導されている。</li> <li>・学校ホームページはたくさん更新できており、見やすいデザインに変更されているのでとても楽しみにしている方が多い。もっと校区・地域にホームページの存在を広め、子供たちの活躍を見ていただけたらよいのではないかと。</li> <li>・教職員の資質向上について、しっかりと目標を立て理解し、きちんと実践できているか、日々PDCAサイクルを通して評価していく必要がある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの活用とところで、最近話題になっている闇バイトもしかりであるが、簡単に犯罪行為に発展してしまうネット社会の中で、間違いに気づき、間違った方向に進まないよう判断できる児童を育成して欲しい。</li> <li>・PTAと連携した読書活動や道徳副読本の親子読書など、今後とも本とのよい付き合いができる児童の育成を望む。</li> <li>・「ふるさとの自然・人・文化に学び、高柳を誇りに思う児童の育成」とあるが、広角的に教育を進めて行ってほしい。学校指導要領というマニュアルがあり、それに則って学習等を進めていかなくてはいけないのはわかるが、個性や主体性を大切に、今後「生きる力」となりうる、高柳独自のスタイルを作ってほしい。</li> <li>・国語科の学習で「対話力」の育成について取り組んでおられるようだが、自分の考えや思いを、たとえフォーマルな場でもしっかりと周囲に伝えられる力をもった大人へと育成してほしい。</li> <li>・先生方はしっかりと学習指導についての考えをもって指導されており、自己評価は適切であるといえる。</li> <li>・高学年になるほど授業中しっかりと話が聞けるようになっていく。学年が上がるにつれて学習規律が確率されているのはよいことである。</li> <li>・放課後、運動場で遊ぶ子どもの姿が見られない。最近の子どもは懸垂ができないと聞いています。スポーツテストではボール投げの力も落ちている。ゲームがいつでもどこでもできてしまうので、昔のような自然な遊びの中で体力作りを行うことは難しい。学校教育活動の中で基礎体力の向上に努めていただきたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あいさつ」についてはあまりできていないという先生の評価もあるが、例えば朝登校時の挨拶について言えば、地域差があると感じる。やはり高学年がしっかりと挨拶できる地区は大きな声でできると思うので、まず高学年から、そして、まず大人から始めなければならない。</li> <li>・挨拶・返事・靴そろえについては長期休み前には学校から「高柳っ子のくらし」等で周知してもらっているので、学年が上がるとできるようになってきている。</li> <li>・お互いを認め合う事の一つに、どのように名前を呼ぶかということがあ。学校では男女ともに「さん」付けで、相手のことを尊重して呼ぼうということになっているようで、よいことだと考える。</li> <li>・地域と子ども達が顔見知りになることはとても大切。今後は防犯ボランティアや地区の行事を通して知り合いになり、お互い気兼ねなく挨拶できるようになっていくべきだ。</li> </ul>